



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

News Letter to Arts Crew

10月号—No.353  
2024.9.25  
(毎月1回25日発行)

【小紫(こむらさき)】小紫の実のような濃い紫。

日本には紫を表す色名がととても多い。その中で最も高貴な色が冠位十二階で最高位の色とされる濃紫(こむらさき)。その色が植物の小紫の実と似ていることから色名として用いられるようになったとか。

## ●目次／contents

今月のニュース	2
地域創造設立30周年ご挨拶／年表 文化施策に関わる主なできごと	
財団からのお知らせ	4
ステージラボセッション開催のお知らせ／令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」公演作品を制作	
今月の情報	5
地域通信／アーツセンター情報	
調査研究事業報告	10
「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果にもとづく今後の展開に関する調査研究」の成果から～アウトリーチから考える文化芸術の役割～	
今月のレポート	12
高知県高知市 市民参加演劇公演『12人の怒れる土佐人』	

# 地域創造は30周年を迎えました。

地域創造は、「文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくり」の支援を目的に、1994年9月30日に設立されました。地方公共団体、公立文化施設、地域の文化・芸術の担い手の皆様のご理解・ご協力により、これまでさまざまな事業に取り組むことができたことを心から感謝申し上げます。

地域の文化・芸術を巡る環境の変化をふまえ、地域創造も時代に即した見直しを図りながら、事業の推進を図ってまいりたいと考えております。引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## ●実績数で振り返る地域創造のあゆみ

地域創造は、①地域における文化・芸術活動を担う人材の育成(研修交流事業)、②公立文化施設の活性化の支援(公共ホール等活性化支援事業)、③地域伝統芸能の保存・継承の支援(地域伝統芸能等保存事業)、④地域の文化・芸術環境づくりに関する情報発信・調査研究(情報交流・調査研究事業)を事業の4つの柱としてこれまで実施してきました。主な実績を簡単にご紹介します。

### ①研修交流事業

公立文化施設等の職員を対象とした実践的な研修を実施する「ステージラボ」(アートミュージアムラボ含む)の受講生は3,617人、公立美術館の職員等を対象とした美術館出前型ゼミの受講生は460人を数えます。また、演劇の手法を使ったワークショップを学ぶ「リージョナルシアター事業」は59団体で実施され、それぞれの地域の劇場・ホール、美術館等の運営に活用されています。

### ②公共ホール等活性化支援事業

公立文化施設の事業に対する支援として、クラシック音楽を地域に届けるアウトリーチ事業とホールでの公演を行う「おんかつ」は414団体、おんかつと同様の枠組みでコンテンポラリーダンスの新しい表現にふれる機会を提供する「ダン活」は194団体に対してアーティストとコーディネーターの派遣を行い事業を実施したほか、公立美術館による共同巡回展等を支援する「公立美術館活性化事業」には245館が参加しました。また、地方公共団体等が主体的に取り組む事業に対する助成は5,275件となっています。

### ③地域伝統芸能等保存事業

全国各地の伝統芸能や古典芸能が一堂に会する「地域伝統芸能まつり」では、206演目の祭りや伝統芸能を上演してきました。また、地域の伝統芸能を映像に記録保存する事業の支援を行い、ウェブサイト「地域文化資産ポータル」では573件の映像資料をご覧いただけます。

### ④情報交流・調査研究事業

「地域創造レター」、雑誌「地域創造」の発行や「地域創造フェスティバル」、ウェブサイト等による情報発信を継続するとともに、調査研究事業として、5年ごとの「地域の公立文化施設実態調査」(今年度実施)のほか、変化する環境のなかで関心の高い事柄をテーマに年次調査を行っています。また、財団設立10周年を機に、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰するため、平成16(2004)年度から「地域創造大賞(総務大臣賞)」を創設し、これまで全国143件の公立文化施設が受賞しています。

今後も、文化・芸術に対する社会的な期待の高まりや環境の変化にも着実にこたえられるよう、地方公共団体や公立文化施設の皆様のニーズを汲み取り、地方が自ら考えていく元気で創造性豊かな地域づくりを支援していきます。

●文化施策に関わる主なできごと(地域創造の取り組みは色文字)

1990(平成2)年	・芸術文化振興基金創設(1990) ・社団法人企業メセナ協議会設立(1990)
1993(平成5)年	・日本オーケストラ連盟設立(1990)
バブル経済崩壊	・文化経済学会設立(1992) ・地方公共団体における文化関係経費の合計が9,553億円のピークに(1993) ・大学におけるアートマネジメント教育の端緒となる慶應義塾大学アート・センター設立(1993)
1994(平成6)年	・国土庁「ステージラボ」開催 <b>財団法人地域創造設立(9月30日)</b> ・ステージラボを地域創造が継承し、財団初の事業として第1回を彩の国さいたま芸術劇場で開催 ・「地域の文化・芸術活動助成事業」開始
1995(平成7)年	・文化庁文化政策推進会議報告書「新しい文化立国をめざして—文化振興のための当面の重点施策について—」発表 ・「地域創造レター」創刊 ・関連団体との共催で第1回「芸術見本市」開催
阪神・淡路大震災(1月17日)	
1996(平成8)年	・文化庁「芸術創造推進事業(アーツプラン21)」創設 ・文化財保護法一部改正(文化財登録制度の導入等) ・雑誌「地域創造」創刊 ・調査「公共ホール・劇場とボランティアに関する調査」実施
1997(平成9)年	・すみだトリフォニーホールとの共催により第1回「地方都市オーケストラフェスティバル」開催 ・「ステージクラフト」として舞台技術者向け研修事業開始
1998(平成10)年	・「特定非営利法人促進法(NPO法)」制定 ・文化庁「文化振興マスタープラン—文化立国の実現に向けて—」発表 ・教育課程審議会において「総合的な学習の時間」の創設を提言 ・日本アートマネジメント学会設立 ・「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」開始。アウトリーチを全国に普及
1999(平成11)年	・市町村の合併の特例に関する法律(旧合併特例法)施行 ・「リージョナルシアター・シリーズ」として東京で地域劇団の第1回フェスティバルを開催 ・「市町村立美術館活性化事業」開始 ・「映像記録保存事業」として地域の伝統芸能等の保存・継承支援を開始 ・「アートアプローチセミナー」として市町村長向け研修事業開始
2000(平成12)年	・NPO法人が運営する日本初の富良野演劇工場開館 ・地域型芸術祭の草分けとなる「大地の芸術祭〜越後妻有アートトリエンナーレ」開始 ・「地域伝統芸能まつり」開始 ・「地域文化施設における芸術普及活動に関する調査研究『アウトリーチ活動のすすめ』」実施 ・公立文化施設2,941館(「地域の公立文化施設実態調査」より)
2001(平成13)年	・中央省庁再編により自治省は総務省、文部省は文部科学省に ・国税庁「認定NPO法人制度」による税制優遇開始 ・「文化芸術振興基本法」施行
2002(平成14)年	・中学校学習指導要領に「邦楽の指導」導入 ・文化庁「文化芸術創造プラン(新世紀アーツプラン)」をスタート
2003(平成15)年	・地方自治法一部改正により指定管理者制度創設 ・NPO法人認証数が1万を超える ・第1回全国アートNPOフォーラム開催
2004(平成16)年	<b>地域創造設立10周年</b> ・市町村の合併の特例等に関する法律(現行合併特例法)施行 ・横浜市「文化芸術創造都市—クリエイティブシティ・ヨコハマの形成に向けた提言」 ・総務大臣賞「JAFRAアワード(現地域創造大賞)」創設 ・調査「公立文化施設における政策評価等のあり方に関する調査研究」(3カ年)実施
新潟県中越地震(10月23日)	
2005(平成17)年	・能楽、文楽、歌舞伎がユネスコの無形文化遺産に指定 ・「地域再生法」施行 ・「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」開始
2006(平成18)年	・「地域文化資産デジタルコンテンツ発信事業」開始
2007(平成19)年	・文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)創設 ・「観光立国推進基本法」施行 ・文化・芸術による福武地域振興財団設立(現・福武財団) ・アートNPOの登録数が2,000団体を超える(アートNPOリンク調査) ・公立文化施設3,944館(「地域の公立文化施設実態調査」より)

2008(平成20)年	・日本の総人口が減少局面に入る ・ふるさと納税制度創設
リーマン・ショック	・公益法人制度改革関連3法施行 ・中学校学習指導要領で「ダンス」必修化を告示 ・演出家がアウトリーチを行う「リージョナルシアター事業」開始 ・「地域創造フェスティバル」開始
2009(平成21)年	・総務省「地域おこし協力隊」制度開始 ・「邦楽地域活性化事業」開始 ・調査「文化・芸術による地域政策に関する調査研究『新「アウトリーチのすすめ」—文化・芸術が地域に活力をもたらすために—』(2カ年)実施
2010(平成22)年	・平成の大合併により市町村数が3,234(1995)から1,727に
2011(平成23)年	<b>地域創造の事業内容を再編</b> 東日本大震災(3月11日) ・日本初のクラウドファンディング運営サービス「Readyfor」開始 ・調査「東日本大震災以降の被災県における公立文化施設及び文化行政に関する実態調査」実施
2012(平成24)年	・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(劇場法)」施行 ・アーツカウンシル東京設立 ・調査「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究」(2カ年)実施
2013(平成25)年	・創造都市ネットワーク日本設立
2014(平成26)年	<b>地域創造設立20周年</b> ・総務省「公共施設等総合管理計画」の策定を地方公共団体に要請 ・文化庁「文化芸術立国中期プラン」公表 ・財団法人地域創造から一般財団法人地域創造へ移行 ・自主・委託事業におけるアウトリーチ事業の普及(実施率38.6%)(「地域の公立文化施設実態調査」より) ・調査「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究—文化的コモンズが、新時代の地域を創造する—」(2カ年)実施
2015(平成27)年	・「美術館出前型ゼミ」開始
2016(平成28)年	・調査「高齢社会における公立文化施設の取り組みに関する調査研究」実施 熊本地震(4月14日)
2017(平成29)年	・「文化芸術基本法」施行(「文化芸術振興基本法」一部改正) ・文化庁の本格移転に先行し、京都に「地域文化創生本部」設置 ・国の関係省庁による「文化芸術推進会議」発足 ・調査「公立文化施設の管理運営状況に関する調査研究」(2カ年)実施
2018(平成30)年	・「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」施行 平成30年7月豪雨(6月28日~7月8日) ・「国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律」施行
2019(平成31/令和元)年	<b>地域創造設立25周年</b> ・「労働施策総合推進法」の一部改正などによるハラスメント防止義務化 ・「地域創造セミナー」開始 ・「公共ホール邦楽活性化事業」開始(「邦楽地域活性化事業」から移行) ・自主・委託事業におけるアウトリーチ事業の実施率43.8%(「地域の公立文化施設実態調査」より)
新元号「令和」施行	
2020(令和2)年	・「文化観光推進法」施行 新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミック ・学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 ・ステージラボをオンライン開催 ・ホームページに有識者による寄稿コーナー「view point」を開設
2021(令和3)年	・調査「地域と文化芸術をつなげるコーディネーター インタビューによる事例調査」実施 オリンピック・パラリンピック東京大会開催
2022(令和4)年	・「博物館法」一部改正 ロシアのウクライナ侵攻 ・「公共ホール創造ネットワークモデル事業」開始 ・調査「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究」実施
2023(令和5)年	・文化庁京都移転 ガザ紛争 ・調査「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果にもとづく今後の展開に関する調査研究 アウトリーチから考える文化芸術の役割」実施
2024(令和6)年	<b>地域創造設立30周年</b> 能登半島地震(1月1日) ・「公共ホール音楽活性化事業(障害者関連プログラム)」新設(R7~) ・「公共ホール現代ダンス活性化事業(障害者関連プログラム)」新設(R7~) ・「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」新設(R7~) ・「公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業」新設(R7~) ・「地域の文化・芸術活動助成事業」に社会課題に対処する助成を新設(R7~) ・「地域の公立文化施設実態調査」実施

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

## 財団からのお知らせ

### ●ステージラボ堺セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象として、事業の企画制作、施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面の運営に欠くことのできない要素を体得するため、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。令和6年度の後期セッションは、フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)にて3コースで開催します。

詳細や参加者募集は、次号(11月号)の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。

#### ◎ステージラボ堺セッション概要

[日程] 2025年2月4日(火)～7日(金)

※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ2月4日(火)～6日(木)

[会場] フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)  
(堺市堺区翁橋町2-1-1)

[開講コース(予定)と対象となる職員の目安]

#### ●ホール入門コース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方

#### ●自主事業コース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方

#### ●公立ホール・劇場マネージャーコース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ方

### ●令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」公演作品を制作

この事業は、都道府県等を中心に、県および市町村等の公共ホールが共同・連携して、クラシック音楽、現代ダンスまたは演劇の複数ジャンルのアーティストを市町村に派遣して複数ジャンルを取り入れた地域交流プログラムと作品を制作して公演を実施するものです。

令和5・6年度の実施団体となる和歌山県では、かつらぎ町、上富田町、串本町の3町が参加し事業を実施しています。アーティストは、ヴァイオリニストの北島佳奈さん(公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト)、セレノグラフィカ(公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト)の隅地菜歩さんと阿比留修一さんで昨年度は参加3町の小学校で新プログラムでのアウトリーチを行いました。今年度は、10月から実施する各ホールでの公演に向け、4月からこれまで3回(計9日間)和歌山県民文化会館に集まって公演作品を制作しており、異なるジャンルの芸術が融合することで生まれる新しい発見を届けるため、参加町の担当者も一緒に話し合いながら作品をつくり上げています。

8月の作品制作では、本事業の広報を兼ねて、和歌山県民文化会館の小ホールにて和歌山アーティストバンク登録アーティストや文化団体、各市町村ホール関係者等に向けて、制作中の作品の一部を公開し、参加者は、音楽とダンスがコラボする様子を見て、公演への期待を膨らませました。続いて行われたアーティスト、コーディネーター、

担当者によるトークイベントでは、本事業へ向かう気持ちなどを話してもらいました。

上富田町教育委員会的那須文彦さんからは、「以前、和歌山県で地域創造の他事業を実施した時に、参加団体間での関係性を構築することができたので、本事業をきっかけに、新たな関係がさらに構築できればと思っている」と本事業への抱負を語りました。

10月に最後の作品制作を行い、公演がスタートします。公演の様子は、改めてレター等でお知らせする予定です。



上:6月のクリエイションの様子/下:制作中作品の一部公開の様子(いずれも和歌山県民文化会館)

●ステージラボに関する問い合わせ  
芸術環境部 児島・天野  
Tel. 03-5573-4183

●令和5・6年度創造ネットワークモデル事業

◎実施団体

和歌山県

◎参加自治体

かつらぎ町、上富田町、串本町

◎アーティスト

●北島佳奈(ヴァイオリン)

●上野絵理子(ピアノ)

●セレノグラフィカ(振付家・ダンサー:隅地菜歩/ダンサー:阿比留修一)

◎コーディネーター

●岩崎正裕(劇作家・演出家・劇団太陽族代表)

●岩村原太(舞台照明家・美術家)

◎開催地(公演日/会場)

●10月13日/和歌山県民文化会館

●10月20日/串本町文化センター

●10月27日/かつらぎ総合文化会館

●11月10日/上富田文化会館

◎問い合わせ

芸術環境部 栗林・柴田

Tel. 03-5573-4055・4064

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

## 地域通信

●地域通信欄掲載情報について  
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方  
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック  
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先  
ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 和田・今野

●2024年12月号情報締切  
10月18日(金)

●2024年12月号掲載対象情報  
2024年12月～25年3月に開催もしくは募集されるもの

### 北海道・東北

#### ●札幌市

北海道立三岸好太郎美術館  
〒060-0002 札幌市中央区北2条西15丁目  
Tel. 011-644-8901 井内佳津恵  
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/mkb/>

#### わがこころの街—好太郎と画家たちの札幌

札幌に生まれ、上京後も毎年のように帰郷し札幌に強い愛を持ち続けた画家・三岸好太郎。今回の特別展では、風景画を核に、さまざまな角度から札幌の魅力に迫る。洋風建築やレンガ造の建物が立ち並んでいた古き良き時代の札幌をモチーフとする同時代の画家の絵画とともに、建物の歴史についても紹介するほか、実際に札幌市街に繰り出す街歩きツアーも予定されている。

[日程]10月5日～12月3日  
[会場]北海道立三岸好太郎美術館

#### ●青森県八戸市ほか

三陸国際芸術推進委員会  
〒020-0874 盛岡市南大通1-15-7 盛岡南大通ビル3F  
Tel. 070-9143-8128 岡田ゆう子  
<https://sanfes.com/>

#### 三陸国際芸術祭2024 「訪レ(おとずれ)」

東日本大震災を機に2014年から始まり10回目を迎える。各地で開かれるまつりのほか、10月はメインプログラム2本を開催。三陸の13団体と台湾の獅子舞グループが一堂に会する「三陸芸能大発見サミット」、若い芸能継承者が集い交流と演舞発表を行う「三陸オオツチ未来芸能祭・オオツチ祭生(さいせい)ミーティング」を通じ、芸能の宝庫である三陸の魅力を国内外に伝え、持続可能な創造的復興の実現を目指す。

[日程]9月～2025年3月(メインプログラム:10月5日、6日、12日、13日)  
[会場]青森県八戸市、岩手県大槌町ほか

#### ●岩手県北上市

北上市立利根山光人記念美術館  
〒024-0043 北上市立花15-153-2  
Tel. 0197-65-1808 川村明子  
[https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/kurashi\\_tetsuduki/bunka\\_sports/bunkashisetsu/toneyama/index.html](https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/kurashi_tetsuduki/bunka_sports/bunkashisetsu/toneyama/index.html)

#### 生きものたち 宮嶋結香展

第6回利根山光人記念大賞展で準大賞を受賞した宮嶋結香を取り上げた企画展。宮嶋は一貫して生きものをテーマに絵画や版画、イラストを制作しており、独特な温かみのあるタッチに惹かれるファンも多い。破いた古紙にアクリルや色鉛筆などで生きものを描いた作品のほか、版画作品も展示。どこか哀愁が漂う生きものたちの姿は穏やかで、常設展示の躍動感ある利根山作品との対比も面白い。  
[日程]8月31日～11月24日  
[会場]北上市立利根山光人記念美術館

#### ●仙台市

仙台市民文化事業団  
〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7(榴岡公園内)  
Tel. 022-295-3956 渡邊直登  
<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~rekimin/>

#### れきみん秋祭り2024

東北地方に伝わる伝統芸能や職人の技術など無形の民俗文化、芸術文化を紹介する秋の恒例イベントとして、2006年度より歴史民俗資料館と10-BOXの共同企画で開催。市内をはじめ東北地方の神楽や、仙台市内の田植踊、鹿踊、剣舞などが一堂に会すほか、伝統工芸の職

人による実演を行う。加えて演奏回しや創作紙芝居なども行われ、伝統と現代の文化によるさまざまなイベントを楽しめる。  
[日程]10月26日、11月3日  
[会場]仙台市歴史民俗資料館

### 関東

#### ●茨城県小美玉市

四季文化館企画実行委員会  
〒319-0132 小美玉市部室1069  
Tel. 0299-48-4466 原田啓司  
<https://minole.city.omitama.lg.jp/>

#### 演劇ファミリー Myuオリジナルミュージカル『わたしとおばけのケーキ屋さん』

「演劇ファミリー Myu」はみの～れと共に生まれた住民劇団で、小学1年生から80歳代までの約100人が登録している。これまでに約30作のオリジナル作品を制作・上演しているほか、ミュージカルワークショップも毎年開催してきた。今回はケーキが大好きな少女が突然迷い込んだおばけの世界が舞台で、出会いと衝突を繰り返しながら2つの世界を変えていく愛と友情の異世界ファンタジーを上演する。  
[日程]10月5日、6日  
[会場]小美玉市四季文化館みの～れ

#### ●さいたま市

埼玉県芸術文化振興財団  
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1  
Tel. 048-858-5506 請川幸子  
<https://www.saf.or.jp/arthatll/>

#### 彩の国さいたま芸術劇場30周年大感謝オープンシアター!

#### 「ダンスのある星に生まれて2024」

芸術監督・近藤良平プロデューサーによるダンスを中心とした劇場開放プログラム。今年の鑑賞公演は近藤が構成・演出・振付を手がける『ラ・ラ・ラ シアターミュージアム』と、ヨシタケシンス

ケの絵本が原作の「おどる絵本『みえるとか みえないとか』」の2本立て。地域交流にフォーカスした参加型イベントもますます充実し、駅から劇場までの道のりには、地元とのタイアップ企画も実現。次々と出現するダンスに出会いながら、劇場の色々な楽しみ方を発見できる。

[日程]10月12日、13日

[会場]彩の国さいたま芸術劇場

#### ●東京都江東区

東京都現代美術館

〒135-0022 江東区三好4-1-1

Tel. 03-5245-4111 小高日香理

<https://www.mot-art-museum.jp/>

#### 開発好明 ART IS LIVE

—ひとり民主主義へようこそ

日常生活や社会現象への関心を礎に、コミュニケーションを促す表現活動を続けてきた開発好明。本展では30年以上の活動の中から約50点の作品、プロジェクトを紹介する。来場者にはウェルカムキットを配布し、それぞれミッションが課せられるなど、参加型で楽しめる仕掛けも。「誰もが先生・誰もが生徒」を合言葉に授業が行われる《100人先生 in MOT》など関連企画も盛り沢山。

[日程]8月3日～11月10日

[会場]東京都現代美術館



開発好明《100人先生 in MOT》  
撮影: 谷岡康則

#### ●東京都世田谷区

せたがや文化財団 生活工房

〒154-0004 世田谷区太子堂

4-1-1 キャロットタワー

Tel. 03-5432-1543 佐藤史治

<https://www.setagaya-ldc.net/>

#### 山下陽光のおもしろ金儲け実験室

リメイクファッションブランド「途中でやめる」主宰をはじめ多彩な活動で知られる山下陽光の思い付きと実験と実践を全公開しながら、生活の糧を得るためのノウハウを楽しむ展示会。ブランドの新作や野生のワサビにヒントを得た絵画の展示のほか、山下の仕事場が会場へ入居し即売会を行うなど、突発イベントも多数開催予定。既存のシステムから新たな価値を生み出す「おもしろ金儲け」の公開実験を行う。

[日程]9月3日～12月26日

[会場]世田谷文化生活情報センター 生活工房

#### ●東京都国立市

くにたち文化・スポーツ振興財団

〒186-0003 国立市富士見台

2-48-1

Tel. 042-574-1515 齊藤かおり

<https://kuzaidan.or.jp>

#### 芸小ステージリエイションシリーズ

ズム『小さな劇場 宇宙のヒト』

「舞台作品を創る」ことに焦点を当てるシリーズ・芸小シリーズリエイション。その中から生まれた、赤ちゃんから大人まで一緒に劇場空間を楽しむ「小さな劇場」三部作の完結編となる『宇宙のヒト』を上演する。ひとりの俳優と美術、ライブ映像でみせる劇場ならではの空間がつけられ、見る人はこころを自由に浮遊させながら、楽しむことができる。

[日程]10月12日、13日

[会場]くにたち市民芸術小ホール

#### ●横浜市

KAAT 神奈川芸術劇場

〒231-0023 横浜市中区山下

町281

Tel. 045-633-6500 中野・松井

<https://www.kaat.jp/>

#### KAAT EXHIBITION 2024

南条嘉毅展 | 地中の渦

劇場空間と現代美術の融合による新しい表現を展開するプログラム。9回目となる今回は、南条嘉毅による土地の歴史と場所性をテーマとした新作のインスタレーション作品を展開する。横浜の地中へと潜り、地層の中に埋もれた歴史や人々の痕跡から、私たちが見ている景色や暮らしを再認識することがテーマ。関連イベントではアーティストトーク、作品のために創作した物語の朗読会も行われる。

[日程]9月23日～10月20日

[会場]KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ

#### ●神奈川県鎌倉市

鎌倉市芸術文化振興財団

〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-

5-25

Tel. 0467-23-6405 今西彩子

<https://www.kamakura-arts.or.jp/kaburaki/>

#### 日本画ができるまで—鶴木清

方の制作風景—

完成後の本画だけではなく、制作過程の下絵やそれを支える画材にも注目した企画展。下絵が残るという日本画ならではの点を生かし、スケッチから始まり本画として完成するまでを楽しめる展示や、古くから工芸的な美しさを持つ画材を使用することにより生まれてきた新たな技法についても紹介。触れる機会自体が減っている日本画全体について、その魅力を誰でも気軽に楽しめる展示をお届けする。

[日程]8月31日～10月22日

[会場]鎌倉市鶴木清方記念美術館

#### ●神奈川県茅ヶ崎市

茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸

北1-4-45

Tel. 0467-88-1177 小澤由季

<https://www.chigasaki-museum.jp/>

#### 柳原良平 ごきげんな船旅

茅ヶ崎市がホノルル市・郡との友好協定締結10周年を記念して開催する展覧会。数々の広告イラストレーションに携わり、一般には企業デザイナーとして有名な柳原良平だが、実は大の船好きでもあり、自身の船旅の経験を基に生み出された作品は多岐にわたる。そんな柳原の船好きな面にフォーカスし、彼の生み出した絵や文章を中心にその多才さに触れつつ、「船旅」を体感できるような展示となっている。

[日程]9月3日～11月10日

[会場]茅ヶ崎市美術館

#### 北陸・中部

#### ●新潟市

新潟市芸術文化振興財団

〒951-8132 新潟市中央区一

番堀通町3-2

Tel. 025-224-7000 平田千春

<https://www.ryutopia.or.jp/>

#### 5台ピアノの世界

5台のフルコンサートグランドピアノを5人のピアニスト(白石光隆、中川賢一、田村緑、デュエットかなえ&ゆかり)の50本の指で演奏するコンサート。奏でられる響きは、フルオーケストラ並みの迫力がありながらも、合間に美しく繊細な音色がはさみ込まれ、目と耳両方で楽しめる。来場者全員に限定の特典CDが配布される。関連企画では中川が本企画の裏話や演奏曲の解説などを楽しくレクチャーする。

[日程]10月19日

[会場]りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館

#### ●石川県金沢市

金沢21世紀美術館

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

Tel. 076-220-2800 黒澤・野中

<https://www.kanazawa21.jp/>

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### Lines(ラインズ)—意識を流れに合わせる

芸術家たちが作品制作の基本要素として“線”をどのように使っているか、線がどのように意味、動き、感情を伝えることができるかについて探求する展覧会。シンプルな線から複雑で複層的な線の絡み合いなど、線のさまざまな側面を探求し、私たちの生活や人間関係をどのように形作っているか、線の探究に参加する16組の作家の作品を通じて考える場となる。

[日程] 6月22日～10月14日  
[会場] 金沢21世紀美術館

### ●福井県福井市

福井県文化振興事業団  
〒918-8152 福井市今市町40-1-1  
Tel. 0776-38-8288 古川真由実  
<https://www.hhf.jp/>

### 秋の子ども音楽会 あけてみよう♪音の宝箱

福井出身のアーティストがプロデュースする0歳児から参加できる人気シリーズのコンサート。12回目となる今回は、二児の母であり、学校等でのアウトリーチ活動の経験も豊富な竹内真紀(ピアノ)がプロデュース。舞台上に設けた客席やリズム遊びを交えた構成など、家族で音を体感しながら楽しめる。一般公募の県民ディレクターズと共に企画アイデアを出しあい、準備を進めている。

[日程] 10月6日  
[会場] ハーモニーホールふくい

### ●長野県伊那市

長野県伊那文化会館  
〒396-0026 伊那市西町5776  
Tel. 0265-73-8822 宮澤瑞希  
<https://inabun.jp/>

### 鹿嶺高原コンサート —天空のオーケストラ—

アルプスの山々を眺望できる標

高約1800mの鹿嶺高原にて、自然と音楽のハーモニーを体感できるコンサート。市内の音楽団体が指揮を務めるなど伊那地域との交流が続く指揮者・横山奏を指揮に迎え、高原に新設された展望テラスでコンサートを開催。市内を拠点に活動するオーケストラと合唱団が出演。地元ケーブルテレビの協力によりYouTubeライブ配信も行う。

[日程] 10月5日  
[会場] 鹿嶺高原キャンプ場 Ka reinaテラス

### ●静岡市

静岡県文化財団  
〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1  
Tel. 054-289-9000 秋川穂夏  
<https://www.granship.or.jp/>

### グランシップ伝統芸能シリーズ 人形浄瑠璃 文楽

ユネスコ無形文化遺産である「人形浄瑠璃 文楽」。江戸時代に現在の大阪で生まれ、太夫(語り手)、三味線、人形遣いが三位一体となりひとつの作品をつくり上げる。本公演は、昼の部で共に人間国宝の鶴澤清治(三味線)、桐竹勘十郎(人形)による『絵本太功記』などを上演。夕の部では、文楽発祥の地・大阪市出身のSPAC俳優・たきいみきと当館長の宮城聡のプレトークが行われる。

[日程] 10月12日  
[会場] グランシップ 中ホール・大地

### ●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団  
〒440-0887 豊橋市西小田原町123  
Tel. 0532-39-8810 加賀・長坂  
<https://toyohashi-at.jp/>

### 高校生と創る演劇 『Journey Over the Rainbow —ドロシーとワタシー—』

公募により選ばれた東三河地域の高校生とプロの演出家、スタッフとが一緒に舞台作品を創作する。劇場開館の翌年から実施している企画。11作目の今回はキャスト13人とスタッフ6人の計19人の高校生が参加。振付家・演出家の下司尚実を迎え、『オズの魔法使い』を下敷きに、音楽やダンスの要素も取り入れたオリジナル作品を上演する。

[日程] 11月2日～4日  
[会場] 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT



昨年度の作品「101年目の夏休み」  
作・演出:吉田小夏 撮影:伊藤華織

### ●愛知県豊田市

豊田市美術館  
〒471-0034 豊田市小坂本町8-5-1  
Tel. 0565-34-6610 千葉真智子  
<https://www.museum.toyota.aichi.jp/>

### 「しないでおく、こと。—芸術と生のアナキズム」

「芸術＝創造」は、認識や知覚の領域を拡張していく営みであり、「芸術」と名づけられることで、一つに回収されてしまうことへの抵抗を含んでいる。本展では、制度化され、統治されることへの抵抗・逃走の姿勢＝アナキズムに芸術の本来の力を認め、新印象主義の画家たちや現代美術家の大木裕之など、あえて「しないでおく」ことの可能性も含めて生き、創造する人々の実践を紹介する。

[日程] 10月12日～2025年2月16日  
[会場] 豊田市美術館

### 近畿

### ●兵庫県宝塚市

宝塚市立文化芸術センター  
〒665-0844 宝塚市武庫川町7-64  
Tel. 0797-62-6800 大野・山口  
<https://takarazuka-arts-center.jp/>

### Made in Takarazuka Vol.5 小清水漸の彫刻 1969～2024・雲のひまの舟

宝塚市ゆかりのアーティストを紹介するシリーズ第5弾として、宝塚市在住の彫刻家・小清水漸(こしみず・すすむ)の半世紀以上にわたる創作活動を紹介する。代表的な作品からシリーズ作品のほか、屋上庭園で150個のガラス玉を使ったインスタレーション作品の展示などを公開する。もの派の時代から現在まで、作品制作を通して美術の根源への問いかけを真摯に続ける小清水漸の足跡をたどる。

[日程] 9月14日～10月15日  
[会場] 宝塚市立文化芸術センター

### 中国・四国

### ●鳥取県鳥取市

鳥取県文化振興財団  
〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5  
Tel. 0857-21-8700 南・金井・飯田  
<http://site.torikenmin.jp/>

### 新作バレエ『赤毛のアン』

特色ある地域文化の創造と発展を目指すプロデュース企画。舞踊部門第3弾となる今回は、前回に引き続き鳥取県出身の井田勝大を指揮・音楽監督に迎え、台本、演出・振付、音楽、舞台、衣装すべてがオリジナルとなる新作バレエに挑戦する。第一線で活躍するプロダンサーと地元ダンサー83名で創作し、プロデュース公演を機に結成した鳥取チェンバーオーケストラの生演奏とともに上演する。

[日程] 10月12日、13日  
[会場] とりぎん文化会館

## ●島根県松江市

島根県立美術館

〒690-0049 松江市袖師町1-5

Tel. 0852-55-4700 五味俊晶

<https://www.shimane-art-museum.jp/>

### 開館25周年オリジナル企画展 「落合朗風 明朗美術連盟と目指した世界」

大正から昭和初期にかけて活躍した夭折の日本画家・落合朗風(1896~1937)の55年振りに開催される大規模回顧展。美術団体・明朗美術連盟を自ら創設し、「日本画」の既成概念に一石を投じる先駆的作品を次々に発表した朗風の画業を改めて振り返るとともに、朗風とその仲間たちが夢見ていた「日本画」の未来を、ゆかりの深い島根の地で考える。

[日程] 9月20日~11月4日

[会場] 島根県立美術館

## ●岡山市



岡山芸術創造劇場

〒700-0822 岡山市北区表町

3-11-50

Tel. 086-201-2200 折田彩

<https://okayama-pat.jp/>

### 廣榮堂プレゼンツ

ハレノワおとぎ話のダンス

「桃太郎対百太郎」

誰もが知っているおとぎ話「桃太郎」をテーマに、北村成美と近藤良平という2人の人気振付家がそれぞれオリジナルのダンス作品を創作。同じ物語が振付家によってどのように変わり、どんな桃太郎や鬼が出てくるのかが楽しめる。北村と公演に出演する日本舞踊家・花柳大日翠によるワークショップも併せて開催。

[日程] 10月26日、27日

[会場] 岡山芸術創造劇場

## ●広島市

広島県立美術館

〒730-0014 中区上幟町2-22

Tel. 082-221-6246 神内有理

<https://www.hpam.jp/museum/>

### 近代日本画の真髄 児玉希望一 千変万化、驚異の筆力展

広島県出身で大正、昭和の日本画壇を牽引した巨匠の一人である児玉希望(1898~1971)の回顧展。120点の希望作品に加え、師の川合玉堂など関係の深い画家の作品も併せて展覧。玉堂から学んだ狩野派・四条派の技法を元に、さまざまな画派や画風・画題を横断したことから「一人の画家のものとは思えない」と言われる千変万化の希望作品が堪能できる必見の展覧会。

[日程] 10月4日~12月1日

[会場] 広島県立美術館

## ●香川県高松市

オペラ「扇の的」実行委員会

〒760-0019 高松市サンポート

2-1(高松市文化芸術財団内)

Tel. 087-825-5010 多田歩

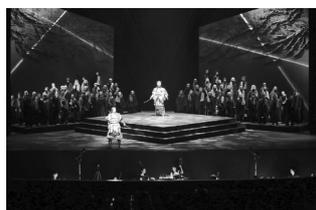
<https://www.sunport-hall.jp/>

### 新作オペラ『扇の的』~青葉の 笛編~ノ谷の合戦、屋島へ

サンポートホール高松開館20周年を記念して制作された、地元の史跡・屋島でくり広げられた源平の戦いの中でも名場面とされる「扇の的」がモチーフの新作オリジナルオペラ。10周年記念事業として制作された『扇の的~ここからはじまる~』の前日譚となる。メインキャストをはじめ、瀬戸フィルハーモニー交響楽団、一般公募による合唱団らオール香川のキャストが平家物語に新たな生命を吹き込む。

[日程] 10月26日、27日

[会場] サンポートホール高松



新作オペラ『扇の的~ここからはじまる~』  
(2014年5月)

## 九州・沖縄

### ●福岡市

(公財)アクロス福岡

〒810-0001 福岡市中央区天神

1-1-1

Tel. 092-725-9317 橋口良太

<https://www.acros.or.jp/>

### アクロスクラシックふえすた2024

「聴くクラシック、触れるクラシック、感じるクラシック」をテーマに、2日間にわたりさまざまなコンサートが開催される。九州交響楽団、アクロスポップスオーケストラによるホールコンサートは0歳児から入場可能で、これまでクラシックに接する機会が少なかった人も気軽にその魅力を味わうことができる。また「楽器ふえすた」では楽器の展示・試奏・即売会も行われる。

[日程] 10月5日、6日

[会場] アクロス福岡



昨年の様子(アートムジカの音楽紙芝居)

### ●熊本県津奈木町

つなぎ美術館

〒869-5603 葦北郡津奈木町

岩城494

Tel. 0966-61-2222 楠本智郎

<https://www.tsunagi-art.jp/>

### 小田原のどか つなぎプロジェクト2024成果展

2008年から続く、住民参画型アートプロジェクト「つなぎプロジェクト」。2023年に2カ年の計画で始まったアーティスト・小田原のどかとのプロジェクトの集大成となる本展では、これまで津奈木町内外の人々が共に考察してきた結果を作品化して展示するとともに、1993年に上巻が刊行されるも、30年あまり未刊のままとなっている『津奈木

町誌』の下巻をめぐる参加型作品も公開する。

[日程] 9月7日~11月24日

[会場] つなぎ美術館

### ●大分県大分市

大分県立美術館

〒870-0036 大分市寿町2-1

Tel. 097-533-4500 柴崎

<https://www.opam.jp/>

### コレクション展Ⅲ

「かわいい日本美術」

敷居の高いイメージのある日本美術や古美術の作品について、誰でも気軽に楽しめるよう、多様な“かわいい”を通し、新たな魅力を届ける。美術作品に表現された身近な犬や猫、鳥やリス、フクロウなどの小動物、愛らしい季節の草花、無邪気で微笑ましい子ども、“ゆるかわ”の僧・布袋さんや南画に描かれた人物、さらには着物や工芸作品のデザインまで、幅広く紹介する。

[日程] 9月14日~11月26日

[会場] 大分県立美術館

### ●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006 那覇市おもろまち

3-1-1

Tel. 098-941-8200 亀海

[https://okimu.jp/art\\_museum/](https://okimu.jp/art_museum/)

### 美術館コレクション展

沖縄にゆかりのあるアーティストの作品やアジア諸国の現代美術作品を紹介するコレクション展。なかでも沖縄美術の流れを紹介する会場では、沖縄戦や海外への移民、アメリカ統治、そして日本への復帰などの出来事を背景に、時代ごとに異なるスタイルで生み出された作品を通して、沖縄美術の独自の変遷や固有性を観ることができる。

[日程] 7月13日~2025年1月19日

[会場] 沖縄県立博物館・美術館

## ▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

### アーツセンター情報

#### ●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

#### ●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

#### ●情報提供先

地域創造レター担当  
Fax. 03-5573-4060  
Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp

#### ●茨城県水戸市

##### 水戸市民会館

〒310-0026 水戸市泉町1-7-1  
Tel. 029-303-6226  
<https://www.mito-hall.jp/>

◎2023年7月2日オープン



提供:水戸市

東日本大震災で被災した市民会館を、水戸芸術館、京成百貨店と並ぶ中心市街地に建設。3つの施設を総称して「MitoriO(ミトリオ)」と名付け、隣接する施設や商店街と連携を図り、市民の芸術文化活動やにぎわい・交流を創出する拠点を目指している。設計は、公募プロポーザルにより、伊東豊雄氏と横須賀満夫氏が手がける。

エントランス広場を抜けて広がる約20mの巨大な吹き抜けの「やぐら広場」は木造による架構が特徴で、パブリックビューイングなどさまざまなイベントの開催も可能。県内最大の2,000席を有する大ホールをはじめ、演劇や室内楽などに対応した中ホール、多目的な小ホール、子どもの遊び場、各種スタジオ、展示スペース、会議室など多彩な施設を備え、幅広い市民のニーズに答えている。

[オープニング事業] 三番叟、ピアノお披露目コンサート ほか

[施設概要] グロービスホール(2,000席)、ユードムホール(482席)、小ホール、展示室 ほか

[設置者] 水戸市

[管理・運営者] (株) コンベンションリンケージ

[設計者] 伊東豊雄建築設計事務所・横須賀満夫建築設計事務所 共同企業体

#### ●岡山市

##### 岡山芸術創造劇場 ハレノワ

〒700-0822 岡山市北区表町3-11-50  
Tel. 086-201-8000  
<https://okayama-pat.jp/>

◎2023年9月1日オープン



岡山市市民会館と岡山市立市民文化ホールの老朽化に伴い、機能を統合した新たな文化芸術施設として整備。「魅せる」「集う」「つくる」をコンセプトに、舞台芸術に関心のある方だけでなく、誰もがいつでも気軽に集い、交流することのできる場所を目指している。

中四国随一の規模となる大中小3つの劇場とアートサロン、11の練習室が備えられ、目的に沿った幅広い公演に対応が可能。木材と朱色を基調とした大劇場は3層構造で、最新の技術を取り入れた舞台設備により、オペラや演劇、ポップスなど多彩な舞台芸術の上演に対応。11の練習室は稽古場のほか、市民の打ち合わせスペースなどにも気軽に利用できる場所となっている。また、オープンスペースには国内外で活躍する作家が手がけた常設アートが展示され、自由に鑑賞が可能。

[オープニング事業] NISSAY OPERA 2023『メディア』

[施設概要] 大劇場(1,753席)、中劇場(807席)、小劇場(最大300席)、アートサロン(最大300席)、練習室11室 ほか

[設置者] 岡山市

[管理・運営者] (公財) 岡山文化芸術創造

[設計者] (株) 竹中工務店

#### ●佐賀県鹿島市

##### 鹿島市民文化ホール SAKURAS

〒849-1312 鹿島市大字納富分2643-1  
Tel. 0954-63-2105  
<https://www.city.saga-kashima.lg.jp/main/18066.html>

◎2023年9月10日オープン



老朽化により閉館した旧鹿島市民会館跡地である鹿島市役所横に建設。旧会館の利用実績を踏まえ、「まちの晴れ舞台」をコンセプトに、小中高校生など若者を中心とした利用に重点を置いて設計された。愛称のSAKURASは市民が集い活動する場所、市の花である桜、円形のホールの3つを意味する。

シューボックス型のホールは、ステージ横や後ろからも鑑賞が可能なバルコニー席や、舞台上から直接2階席へ移動できるもみあげ席を設置。またホールと交流ラウンジ間の壁は開閉することで空間の一体的な活用が可能となり、観客席を増やすこともできる。吸音壁には鹿島錦の模様、座席には市のイメージカラー8色がデザインされ随所に鹿島らしさが散りばめられているほか、ハワイエをはじめ館内のオープンスペースにはふるさと資料館も併設され鹿島の魅力を発信する場にもなっている。

[オープニング事業] かしま伝承芸能フェスティバル ほか

[施設概要] ホール(751席)、交流ラウンジ、練習室、多目的室2室、鹿島市ふるさと資料館 ほか

[設置・管理・運営者] 鹿島市

[設計者] (有) ナスカ一級建築士事務所

# アーティストやコーディネーターの考えをリサーチ ～提言をとりまとめ

「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果にもとづく今後の展開に関する調査研究」の成果から

## 調査結果と提言の要約

●令和5年度「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果にもとづく今後の展開に関する調査研究」報告書(令和6年3月)  
<https://www.jafra.or.jp/library/report/2023/index.html>

\*1 「アウトリーチ活動のすすめ」地域文化施設における芸術普及活動に関する調査研究(平成13年3月)  
「文化・芸術による地域政策に関する調査研究」報告書 新「アウトリーチのすすめ」～文化・芸術が地域に活力をもたらすために～(平成22年3月)  
「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究」(令和4年3月)

\*2 調査実施期間：2023年8月25日～9月17日、回収状況：調査対象者数235件(アーティスト190名・組、コーディネーター45名)、回答数115件、回答率48.9%。

\*3 調査研究委員  
・上野正道(上智大学 総合人間科学部 教育学科 教授)  
・神前沙織(NPO法人ジャパン・コンテンツボラリアーダンス・ネットワーク チーフ・コーディネーター)  
・田中真実(認定NPO法人STSポット横浜 事務局長/横浜市芸術文化教育プラットフォーム 事務局長)  
・田中玲子(認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブプロデューサー/理事)  
・千田祥子(公益財団法人音楽の力による復興センター・東北 シニア・コーディネーター)  
・源由理子(明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 教授/明治大学 副学長(社会連携担当)/明治大学社会連携機構長)

地域創造では平成10年度に公共ホール音楽活性化事業を開始して以来、演劇、現代ダンス、邦楽へと分野を広げながら、全国各地でアウトリーチやワークショップなどの事業を推進してきた。それに伴い、アウトリーチをテーマにした調査研究を行い、その効果やあり方について報告・提言を行ってきた<sup>(\*1)</sup>。

一昨年度からその最新調査が2カ年にわたって行われ、令和5年度にはこれまで地域創造の事業に携わってきたアーティストやコーディネーターを対象にしたアンケート調査<sup>(\*2)</sup>とグループインタビューを実施し、令和4年度の調査結果と合わせて、今後のアウトリーチやワークショップの展開方法や方向性についての提言をまとめた。なお、調査研究を行うにあたり、こうした活動の学術研究や現場の実践経験を有する有識者からなる委員会を設置した<sup>(\*3)</sup>。今回は令和5年度の調査研究報告書から主な内容を紹介する。

## ●アウトリーチの効果は芸術分野によって異なる

令和5年度に実施したアーティスト・コーディネーター対象のアンケート調査では、「アーティストが学校に出向いて行うような授業は、特に子どもたちのどのような能力や心を育むことに効果があると思われますか」という質問に対し、「素直に感動する心(感受性)」が80.0%、「目に見えない事象をイメージする力(想像力)」が74.8%、「自分の考えや気持ちを表現する力(表現力)」が67.0%という結果となった(P19、以下カッコ内のページ番号は報告書での図表掲載ページを示す)。

芸術分野別の集計では、クラシック音楽は「素直に感動する心(感受性)」が94.3%で最も高く、次いで「目に見えない事象をイメージする力(想像力)」が73.6%となった。邦楽もクラシック音楽と同様で「感受性」が最も高く、次いで「想像力」となっている。一方、ダンス・演劇では「新しいアイデアや物事を生み出す力(創造力)」が91.4%で最も高く、次いで「人と対話したり接する力(コミュニケーション能力)」が

88.6%と、クラシック音楽・邦楽に比べて「創造力」や「コミュニケーション能力」が高い割合となっている(P21)。

## ●アーティスト自身が文化・芸術の可能性を再認識

アーティスト・コーディネーターへのインタビューでは、アウトリーチに対する考えやプログラムの特徴を質問したところ、専門とする芸術分野の知識や技術を子どもに習得させることを第一義とするという回答はなかった。むしろ、芸術そのものとの出会い以上に、芸術に長年打ち込んで来たプロのアーティストという大人との出会いこそが、子どもにとって大事ではないかという意見が聞かれた。また、地域創造の公共ホール音楽活性化事業がスタートした当初は、アウトリーチの前例も少なく、アーティストはコーディネーターとともにトライ&エラーを繰り返し、失敗しても「次はもっと良くしよう」という努力を積み重ねて、自分自身のオリジナルのプログラム内容や手法を開発してきたと言う。

アーティストを対象にしたアンケートで、アウトリーチによって自身が受けた効果や影響について質問したところ、「文化・芸術の可能性を再認識し、自身の仕事に誇りを持つようになった」が第1位となった(8項目を提示し、「とてもそう思う」(5点)から「まったくそう思わない」(1点)まで5段階評価で評価。第1位は平均値4.66。P29)。

アーティスト・コーディネーターを対象としたアンケートで、アウトリーチやワークショップを実施する上で感じた課題について「学校や地域との調整役となる職員の異動」が58.3%と最も回答割合が高く、「活動にかかる時間や経費に対して収入のバランスが悪い」が45.2%、「活動資金や人材が不足していて、思うように活動を広げられない」が37.4%となっている(右図参照。P11)。

アーティストへのインタビューによると、経験値が豊かになればなるほど、あらゆる年齢層に、またさまざまな障害の種別を対象に活動

が広がっていることが明らかとなった。

### ● 今後に向けた3つの提言

以上の2カ年の調査結果を踏まえて、地域の文化施設や地方公共団体などに向けた提言「アウトリーチから、文化施設、文化行政の改革を進める」をまとめた。アウトリーチやワークショップの今後の展開に関する3つの提言の概要は次の通り。

**提言1:「アウトリーチやワークショップを起点に、文化芸術を通して地域と向き合い、新たな取り組みに挑戦してみませんか」(P2)**

アウトリーチやワークショップは、さまざまな事情で文化施設に出かけられない人たちと、芸術や文化施設との間に回路を切り開いていく活動である。困難や生きにくさを抱えた人たちを視野に入れて、文化施設と地域住民との距離を縮めるためにも、地域の課題と積極的に向き合い、実践を通じて文化芸術の社会的な価値を言語化することが求められている。

**提言2:「複雑化する地域の課題と向き合うために、さまざまな立場のコーディネーターと連携し、アウトリーチ的な取り組みの範囲や射程を広げましょう」(P6)**

想定外の出来事が次々と発生し、将来が予測できない現代において、地域の課題は複雑

化する一方である。そうした地域の多様な課題に向き合うために、アーツカウンシルやアートNPO、民間団体で活躍するコーディネーターとパートナーを組むことが大切である。

**提言3:「地域における文化芸術や文化施設の必要性を訴えていくためにも、アウトリーチやワークショップを文化政策に位置づけ、持続可能なものとしなければなりません」(P8)**

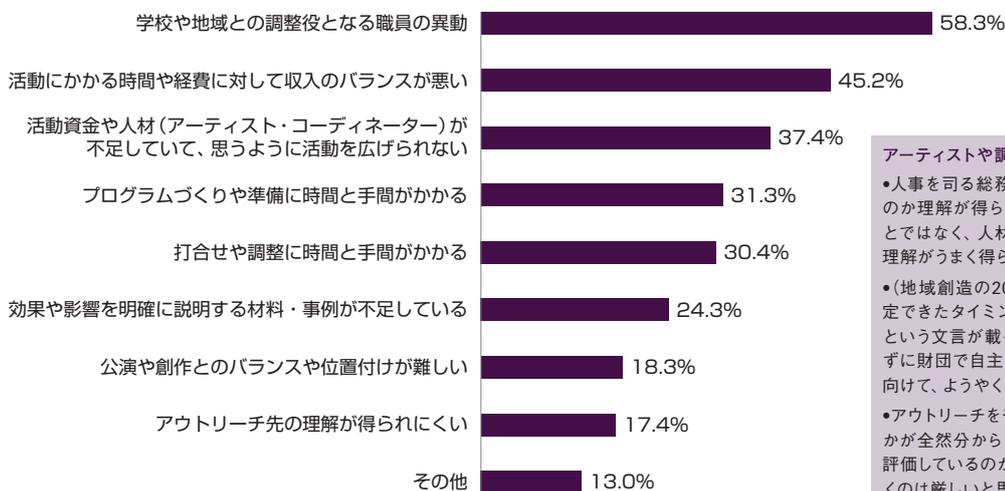
地方公共団体は、アウトリーチやワークショップを施策に明確に位置付けて、専門人材の育成、適切な職員配置、事業予算の獲得努力を行うべきである。既に実施している館は、それを継続、拡充し、対象や分野を広げていただきたい。まだ実施していない館は、地域創造の補助事業なども活用して、まずはアウトリーチやワークショップに着手することが望まれる。

※

公立の文化施設でのアウトリーチの実施状況は2019年度で43.8%となっており、全国各地に普及・定着し、館独自の継続的な取り組みも広がっている(P15)。文化・芸術による創造的な地域づくりのために、文化行政、文化施設の関係者にはぜひ報告書に目を通していただき、今後の事業や施策の推進に役立てていただければ幸いである。

(文化コモンズ研究所・大澤寅雄)

図：アーティスト・コーディネーターがアウトリーチやワークショップを実施する上で感じた課題 (n=115)



アーティストや調査協力館の担当者のインタビューから

- 人事を司る総務課に、担当職員にどのような専門性が必要なのか理解が得られていない。人員が確保できればいいということではなく、人材の質の部分、専門性が必要だという根本的な理解がうまく得られていない。(調査協力館の担当者Aさん)
- (地域創造の2022年度調査が)ちょうど市で条例と計画を策定できたタイミングで、そこに「アウトリーチをやっています」という文言が載った。長年、行政の施策のどこにも紐付けられずに財団で自主的にやっていたが、積み上げてきたものが表に向けて、ようやく先が少し開けた。(調査協力館の担当者Bさん)
- アウトリーチをやっても、お金が下りてくるところに直結するのかが全然分からない。僕らの成果を数字で表せないのか、どう評価しているのか。サポートがない今の体制をそのまま続けてくのは厳しいと思う。(トロボン奏者Cさん)

## ▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

高知県高知市

市民参加演劇公演

### 『12人の怒れる土佐人』



写真提供：高知市文化振興事業団

#### ●市民参加演劇公演『12人の怒れる土佐人』

【制作】(公財)高知市文化振興事業団  
【協力】高知市文化プラザ共同企業体

【日程・会場】高知市文化プラザかるぼーと小ホール(2024年8月24日、25日)、土佐清水市立市民文化会館くろしおホール(9月8日)、窪川四万十会館(9月14日)、香南市夜須公民館マリンホール(9月23日)  
\*台風の影響で一部会場変更

【作】レジナルド・ローズ

【演出】細川貴司

【出演】野村裕、川崎弘佳、西村和洋、井上琢己、浜崎ナタリア、松木一男、別役みか、岡村茜、川島敬三、藤岡武洋、柴千優、岩松和賀、細川貴司

【翻訳】島崎碧、市川理沙、神田芳子、藤崎琴子、藤本理子、松下晴男、徳橋順子、岡本淑、リチャード・スワンソン、吉岡いつか、吉富文、竹内一二三

【英日翻訳監修】永田景子

【土佐弁翻訳監修】大家真理

この夏、高知市文化振興事業団が制作した市民参加劇『十二人の怒れる土佐人』が、8月24日から高知市文化プラザかるぼーとを含めて県内4施設を巡演した。演出は高知市出身で俳優でもある細川貴司、作品は父親の殺害容疑をかけられた少年をめぐる陪審員12人が熱い議論を闘わせる『12人の怒れる男』(レジナルド・ローズ作)だ。映画版でも知られるこの作品を土佐弁へと翻訳したのが最大の特徴で、50年代のアメリカを舞台とした密室法廷劇が見事に高知で立ち上がった。



劇場に入ると中央に陪審員室、その両側に対面式に客席が設置され、観客も陪審員の一人としてその場に居合わせているかのようだった。出演したのはオーディションで選ばれた18歳から72歳までの市民男女各6人。演劇経験もバラバラで、職業も異なれば、人生経験も異なる市民が出演していることで、自ずと立体的なドラマとなり、演者にも観客にも馴染み深い土佐弁によって体温を帯びたリアルな会話劇になっていた。約100分出ずっぱりで論争する芝居は集中力も要し、プロの俳優でも難易度が高い。出演者は働いている市民がほとんどだが、7月から平日は夜7時から9時半、土日は午後1時から6時まで週6日の稽古を重ねた。

事業を担当した吉田剛治さん(同市文化振興事業団)は、仕事の傍らNPOで小劇場「蛸蔵」を運営している。細川さんとはその活動の中で出会い、同劇場で上演した市民参加演劇『わが町』(2021年)、香南市夜須公民館での『花咲く港』(23年)の制作を務めた。そこで市民と向き合う細川さんの演出姿勢に共感し、今回の企画を共に考えた。県内巡演のために、机とイスがあればできるシンプルなセットにするなどして低予算化。「旅公演で作品を成長させられるなんて、市民劇ではめったに体験できません」と期待を滲ませていた。

面白いのは、翻訳にも市民参加で挑戦したことだ。細川さんと旧知の翻訳者である永田景子さんのファシリテートの下、戯曲翻訳とは何かのワークショップから始め、参加者全員で標

準語粗訳台本を作成。そこから高知在住の参加者を中心に土佐弁へ直し、監修者である大家真理さんが粗訳のニュアンスを汲み取りながら土佐弁を監修し、上演台本を完成させた。

永田さんは、「応募があるか心配しましたが、通訳ボランティアや英米文学を専攻する現役大学生などさまざまな市民12人が参加してくださった。原文の語順やリズムを尊重しながら先入観を持たずに訳す翻訳作業を、細かいやり取りを繰り返しながら、基本オンラインで全10回。皆さんとても熱心に取り組んでくださいました」と振り返り、大家さんは、「参加者たちが大切に原文の細かなニュアンスを土佐弁ならではの表現に落とし込むためにはどの単語を選ぶか、言葉を決めていきました」と話す。

現在、長野を拠点に活動する細川さんは、翻訳者がいない地方都市で海外戯曲を上演するには、出版物に頼るしかなく、どうしても上演作品が限られ、都市部のプロダクションの後追いしかできない現状を長年疑問に感じていた。今回のユニークな翻訳プロジェクトは、そんな現実を打破するアイデアだった。細川さんは、「高知の劇場の企画で、日本未発表の戯曲を初演するなんて夢も可能になる」と笑顔を見せる。

細川さんは、出演者オーディションや稽古場で何度も「技術は求めません。舞台にあなたの人生を貸してください。プロに太刀打ちできない“生活者”を見せてほしい」と語りかけたとか。「高知の郷土料理に“皿鉢”というのがあります。大皿に全部のご馳走が盛り合わせてあって、台所に立つ必要もなく、男も女も最初から最後まで一緒に酒を飲む。これってもしかすると今の社会が理想としている一つの形かもしれないと思ったんです。都市部がいつも最先端なわけじゃない。地方に最先端が既に存在しているかもしれないんです。何かを発言することが難しい現代に、今回の芝居でそんな土佐人のコミュニケーションを楽しんでもらいたかった」。

他者との議論を諦めない——これは、演劇が大いに得意とするテーマかもしれないと再認識した。(ライター・川添史子)